

会長講演

11月13日(金) 11:00～11:50 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

座長：岩坪 威 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所)

CL 認知症の未来を共に創るー神経病理から社会実装へ：30年の軌跡と展望ー
新井 哲明 (筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)

特別講演

11月14日(土) 13:10～14:00 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

座長：齊藤 貴志 (東京大学大学院医学系研究科・神経病理学分野)

SL Deep Human Biology Learningに基づく認知症治療薬並びにバイオマーカー開発
堀江 勘太 (エーザイ株式会社／Washington University School of Medicine)

特別企画

11月14日(土) 15:45～16:35 第6会場 (つくば国際会議場 3F 中ホール300)

共生社会の実現に向けた課題

座長：栗田 主一 (社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター)

SP-1 最近の認知症施策の動向
山崎 博輝 (厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課)

SP-2 共生社会の実現に向けて経済産業省が進める認知症施策について
福田 光紀 (経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課)

海外招聘講演

海外招聘講演 1

11月13日(金) 14:10～15:00 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

座長：新井 哲明 (筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)

IL1 When One Target Isn't Enough : Rethinking Neurodegeneration
Edward B. Lee (University of Pennsylvania)

海外招聘講演 2

11月14日(土) 9:50~10:40 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

座長：池田 学 (大阪精神医療センター脳とこころの未来医療センター／大阪大学健康支援・相談センター)

IL2 Dementia with Lewy Bodies : Recent Advances and Future Directions

John O'Brien (Old Age Psychiatry, University of Cambridge, UK)

海外招聘講演 3

11月14日(土) 14:10~15:00 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

座長：森 啓 (長岡崇徳大学)

IL3 Alzheimer's Drug Development : Progress, Lessons, and Future Directions

Szofia S Bullain (Biogen International GmbH)

海外招聘講演 4

11月15日(日) 9:50~10:40 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

座長：徳田 隆彦 (大阪公立大学大学院医学研究科健康長寿医科学講座病因診断科学／量子科学技術研究開発機構・脳機能イメージング研究センター)

IL4 Native-State Structural Biology of the Vulnerable Brain

Yi-Wei Chang (Department of Biochemistry and Biophysics, Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania)

プレナリーレクチャー

プレナリーレクチャー 1

11月13日(金) 13:10~14:00 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

座長：秋山 治彦 (横浜市立脳卒中・神経脊椎センター MCI・認知症センター)

PLL1 アルツハイマー病：疾患修飾療法の現状と課題

岩坪 威 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所)

プレナリーレクチャー 2

11月13日(金) 15:10~16:00 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

座長：品川俊一郎 (東京慈恵会医科大学精神医学講座)

PLL2 前頭側頭型認知症の治療とケア

池田 学 (大阪精神医療センター脳とこころの未来医療センター／大阪大学健康支援・相談センター)

プレナリーレクチャー 3

11月14日(土) 8:50~9:40 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

座長：齊木 臣二 (筑波大学附属病院脳神経内科)

PLL3 パーキンソン病の原因を追って

服部 信孝 (順天堂大学医学部脳神経内科／ニューロン-グリアクロストークセンター／
理化学研究所脳神経科学研究センター神経変性疾患連携研究チーム)

プレナリーレクチャー 4

11月14日(土) 15:10~16:00 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

座長：齊藤 貴志 (東京大学大学院医学系研究科・神経病理学分野)

PLL4 患者iPS細胞とAIによる神経変性疾患の研究

井上 治久 (京都大学 iPS 細胞研究所／国立研究開発法人理化学研究所バイオリソース研究センター)

プレナリーレクチャー 5

11月15日(日) 8:50~9:40 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

座長：水上 勝義 (合同会社ライフアンドヘルス／筑波大学)

PLL5 認知症の予防：Lancetの14危険因子をどう読む？

朝田 隆 (筑波大学)

学術教育講演

学術教育講演 1

11月13日(金) 8:50~9:40 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

座長：清水聰一郎 (東京医科大学病院高齢診療科)

EL1 認知症やフレイルとの関連から考える健康寿命延伸における難聴対策の重要性

和佐野浩一郎 (東海大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

学術教育講演 2

11月13日(金) 9:50~10:40 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

座長：井藤 佳恵 (東京都健康長寿医療センター研究所福祉と生活ケア研究チーム)

EL2 認知症高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア

飯島 節 (介護老人保健施設ミレニウム桜台)

学術教育講演 3

11月13日(金) 13:10~14:00 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

座長：繁田 雅弘 (栄樹庵診療所)

EL3 認知症と消費者被害：医療者に求められる視点と実践

成本 迅 (京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学)

学術教育講演 4

11月13日(金) 14:10~15:00 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

座長：三村 將 (慶應義塾大学予防医療センター)

- EL4** 認知症と自動車運転：最新の評価と支援
上村 直人 (高知リハビリテーション専門職大学)

学術教育講演 5

11月13日(金) 15:10~16:00 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

座長：北村 立 (石川県立こころの病院)

- EL5** 地域高齢住民における認知症有病率の時代的变化とその要因：久山町研究
小原 知之 (九州大学大学院医学研究院精神病態医学／九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学)

学術教育講演 6

11月14日(土) 8:50~9:40 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

座長：武田 朱公 (大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学)

- EL6** AI・デジタル技術による認知症スクリーニング支援
小林 正朋 (IBM Research)

学術教育講演 7

11月14日(土) 9:50~10:40 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

座長：岩坪 威 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所)

- EL7** アルツハイマー病の治験における課題と展望
鈴木 啓介 (国立長寿医療研究センター先端医療開発推進センター)

学術教育講演 8

11月14日(土) 13:10~14:00 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

座長：川勝 忍 (福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座)

- EL8** 温故知新ー神経病理からみた認知症ー
池田 研二 (東京都医学総合研究所認知症プロジェクト)

学術教育講演 9

11月14日(土) 14:10~15:00 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

座長：小野寺 理 (新潟大学)

- EL9** プリオン病の早期診断と治療法の開発
三條 伸夫 (東京科学大学・国際医工共創研究院・希少神経難病治療薬開発講座／
東京科学大学大学院脳神経病態学分野 (脳神経内科))

学術教育講演 10

11月15日(日) 8:50~9:40 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

座長：池内 健 (新潟大学脳研究所ブレインヘルスケア領域)

EL10 認知症診療における血液バイオマーカーの進歩

春日 健作 (国立長寿医療研究センター診断イノベーション研究部)

学術教育講演 11

11月15日(日) 9:50~10:40 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

座長：神林 崇 (筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構)

EL11 自己免疫性脳炎の診断・治療—Up to Date

田中 恵子 (福島県立医科大学多発性硬化症治療学)

学術教育講演 12

11月15日(日) 13:05~13:55 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

座長：久永 眞市 (東京都立大学理学研究科生命科学専攻)

EL12 神経変性疾患における蛋白質凝集体の構造解析

渡辺 亮平 (筑波大学附属病院精神神経科)

シンポジウム

シンポジウム 1

11月13日(金) 8:50~10:50 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

アルツハイマー病治療薬開発の最前線

座長：岩坪 威 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所)

岩田 淳 (地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター脳神経内科)

SY1-1 Subcutaneous Lecanemab for Treatment of Early Alzheimer's Disease

Michael Irizarry (Eisai Inc. Nutley, NJ)

SY1-2 Latest results and developments for trontinemab in Alzheimer's disease (AD)

Janice Smith (Roche Products Ltd.)

SY1-3 Donanemab for Early Symptomatic Alzheimer's Disease : Amyloid PET Dynamics

Stephane Epelbaum (Eli Lilly and Company)

SY1-4 Results from a Phase 2 Study Assessing Diranersen in Early Alzheimer's Disease

Amanda Edwards (Biogen, USA)

SY1-5 Targeting TREM2 with VHB937 in AD : FIH results and phase 2 study design

西庄 功一 (ノバルティスファーマ株式会社開発本部)

SY1-6 PHASE 2B AUTONOMY TRIAL OF POSDINEMAB FOR EARLY ALZHEIMER'S DISEASE

Janice Wong (Johnson & Johnson, USA)

シンポジウム 2

11月13日(金) 8:50~10:50 (第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102)

α シヌクレインパチーの病態研究の進歩

座長：鈴掛 雅美 (東京都医学総合研究所認知症研究プロジェクト)

奥住 文美 (順天堂大学脳神経内科)

SY2-1 α シヌクレイン構造と脱凝集機構から読み解く病態基盤

中川 幸姫 (理化学研究所脳神経科学研究センター)

SY2-2 病態モデル動物を用いた α シヌクレイン伝播抑制手法開発の試み

鈴掛 雅美 (東京都医学総合研究所)

SY2-3 疾患特異的 α シヌクレイン線維の病的活性

上村 紀仁 (大阪公立大学大学院医学研究科神経疾患制御学)

SY2-4 体液中 α シヌクレイン凝集体の超高感度検出が拓く病態解明

奥住 文美 (順天堂大学医学部附属順天堂医院脳神経内科／
大阪公立大学大学院医学研究科健康長寿医科学講座)

SY2-5 α シヌクレインPETを中心とする分子イメージングが切り拓く病態理解

遠藤 浩信 (量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究センター)

シンポジウム 3

11月13日(金) 8:50~10:50 (第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200)

TDP-43と神経変性

座長：野中 隆 (東京都医学総合研究所認知症研究プロジェクト)

橋本 唯史 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部)

SY3-1 細胞外TDP43による線条体アストロサイト活性化を介した神経機能障害

村松里衣子 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所)

SY3-2 エクソソーム分泌異常とALS/FTD

武内 敏秀 (近畿大学ライフサイエンス研究所)

SY3-3 ALSにおけるTDP-43病理形成機序とその制御

山中 宏二 (名古屋大学環境医学研究所)

SY3-4 TDP-43タンパク質を標的とした核酸医薬の開発

坂上 史佳 (東京科学大学国際医工共創研究院核酸・ペプチド創薬治療研究センター／
東京科学大学医歯学総合研究科脳神経病態学分野)

SY3-5 ゼブラフィッシュモデルから探るTDP-43の細胞毒性メカニズム

浅川 和秀 (情報・システム研究機構国立遺伝学研究所／総合研究大学院大学 (SOKENDAI))

シンポジウム 4

11月13日(金) 8:50~10:50 (第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201)

小血管病と血管性認知症の病態と治療

座長：新堂 晃大 (三重大学脳神経内科学)

薬師寺祐介 (関西医科大学神経内科学講座)

SY4-1 脳小血管病を理解する：病態と臨床への応用

三輪 佳織 (国立循環器病研究センター脳血管内科)

SY4-2 脳小血管病の病態

植田 明彦 (熊本大学病院脳神経内科)

SY4-3 脳小血管病の画像バイオマーカー：見えない脳障害を捉える

池田 宗平 (関西医科大学神経内科学講座)

SY4-4 抗A β 抗体治療時代の脳画像診断：ARIAを中心に

海野 真記 (三重大学医学部附属病院放射線科)

SY4-5 脳小血管病の治療戦略 遺伝性脳小血管病も含めて

尾原 知行 (京都府立医科大学脳神経内科)

シンポジウム 5

11月13日(金) 8:50~10:50 (第5会場 つくば国際会議場 2F 中会議室202)

PD・DLBの臨床最前線：認知症疾患治療ガイドラインの改定を踏まえて

座長：斉木 臣二 (筑波大学附属病院脳神経内科)

藤城 弘樹 (名古屋大学大学院医学系研究科精神医学)

SY5-1 DLBの5臨床ドメインについて

藤城 弘樹 (名古屋大学大学院医学系研究科精神医療学)

SY5-2 パーキンソン病診療の現在地：多様性と個別化への展望

坪井 崇 (名古屋大学医学部附属病院)

SY5-3 老年精神医学の立場からレビー小体病を考える

小林 良太 (藤田医科大学医学部認知症・加齢脳科学科)

SY5-4 iRBDからPD/DLBへの表現型変化を中心に

三橋 泉 (筑波大学医学医療系神経内科学分野)

シンポジウム 6

11月13日(金) 8:50~10:50 (第7会場 つくば国際会議場 4F 中会議室406)

前頭側頭型認知症の症候と対応

座長：橋本 衛 (近畿大学医学部精神神経科学教室)

繁信 和恵 ((公財)総合病院浅香山病院精神科)

SY6-1 前頭側頭型認知症の常同行動の機序を探る

船山 道隆 (足利赤十字病院神経精神科)

SY6-2 前頭側頭型認知症の食行動異常への対応
坂井麻里子（大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科／
医療法人友協会友協会総合病院リハビリテーション科）

SY6-3 前頭側頭型認知症の言語症状への対応
高崎 昭博（大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室）

SY6-4 前頭側頭型認知症の触法行為の現状と対応
品川俊一郎（東京慈恵会医科大学精神医学講座）

シンポジウム 7

11月13日（金） 8:50～10:50 （第8会場 つくばカピオ 1F ホール）

グリア細胞の認知症における役割について（ホット・トピックディスカッション）

座長：齊藤 貴志（東京大学大学院医学系研究科・神経病理学分野）
里 直行（国立長寿医療研究センター）

SY7-1 アストロサイトの異常貪食が駆動する白質変性：アレキサンダー病から認知症まで
小泉 修一（山梨大学院医薬理学／山梨 GLIA センター）

SY7-2 神経回路変調におけるアストロサイトの役割
長井 淳（理研脳センターグリア-神経回路動態チーム）

SY7-3 認知症関連疾患におけるグリア細胞病理：形態診断から分子病態理解へ
他田 真理（新潟大学脳研究所脳資源科学分野・病理学分野／
新潟大学ひと脳研究資源イニシアチブ推進センター ChBRI）

SY7-4 TREM2/INPP5D軸からみるアルツハイマー病グリア応答
高島 翔（東京大学大学院薬学系研究科）

SY7-5 ミクログリアとApoEがもたらすアミロイド斑の質的变化
梶 誠児（京都大学大学院医学研究科臨床神経学）

シンポジウム 8

11月13日（金） 13:05～14:45 （第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101 + 102）

認知症血液バイオマーカーは八分咲き：国際的な開発研究と臨床実装の現状と課題

座長：徳田 隆彦（大阪公立大学大学院医学研究科健康長寿医科学講座病因診断科学／量子科学技術研究開発機構・
脳機能イメージング研究センター）
工藤 喬（医誠会国際総合病院認知症予防治療センター）

SY8-1 国際的な認知症疾患血液バイオマーカー開発研究の現状とQST/OMUでの独自の取り組み
徳田 隆彦（大阪公立大学大学院医学研究科健康長寿医科学講座病因診断科学）

SY8-2 実臨床コホートで読み解く血漿p-tau217——現状と、次の一手
工藤 喬（医誠会国際総合病院認知症予防治療センター）

SY8-3 3&4リピータウ混合タウオパチーの脳内病理を反映する体液バイオマーカー
堀江 勘太（Washington University School of Medicine／エーザイ株式会社）

SY8-4 シヌクレイノパチーに対する最新の血液BM開発とその検証
後藤 良司（量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究センター）

シンポジウム 9

11月13日(金) 13:05~14:45 (第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200)

クライオ電顕による認知症研究の進展と今後

座長：長谷川成人（東京都医学総合研究所）
久永 眞市（東京都立大学理学研究科生命科学専攻）

- SY9-1 クライオ電顕による色素分散症候群の病態解明
柳澤 春明（東京大学医学系研究科）
- SY9-2 固体NMRとクライオ電顕によるアミロイド β 凝集体研究の現状と今後
石井 佳誉（東京科学大学生理工学院）
- SY9-3 クライオ電子顕微鏡解析によるプリオン株の構造と伝播性の相関解明
田中 元雅（国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター）
- SY9-4 Tau/TDP-43線維構造から読み解くプロテインパチーの分子病態
樽谷 愛理（東京都医学総合研究所臨床医科学研究分野認知症研究プロジェクト）

シンポジウム 10

11月13日(金) 13:05~14:45 (第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201)

脂質代謝・膜流動性・膜酸化と神経機能・神経変性・フェロトーシス

座長：武田 朱公（大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学）
舟本 聡（同志社大学生命医科学部医生命システム学科神経病理学）

- SY10-1 生体膜脂質の多様性が規定する神経変性ストレス応答
平田 祐介（東北大学大学院薬学研究科衛生化学分野）
- SY10-2 ホスファチジルイノシトール脂肪酸鎖リモデリングの脳皮質形成における意義
河野 望（東京大学大学院薬学系研究科衛生化学）
- SY10-3 分泌タンパク質リーリンの多層的制御と神経細胞膜機能：アルツハイマー病病態との接点
河野 孝夫（名古屋市立大学大学院薬学研究科病態生化学分野）
- SY10-4 膜流動性が制御するシナプス分子ダイナミクスー神経生理から神経変性へー
坂内 博子（早稲田大学理工学術院）

シンポジウム 11

11月13日(金) 13:05~14:45 (第5会場 つくば国際会議場 2F 中会議室202)

認知症支援におけるDEI：集団の壁と個の尊重をめぐる4つの視点

座長：東 晋二（東京医科大学茨城医療センターメンタルヘルス科）
羽田沙緒里（国立研究開発法人産業技術総合研究所）

- SY11-1 認知症の人が社会参加するために必要なもの
小原 知之（九州大学大学院医学研究院精神病態医学）
- SY11-2 認知症の人の暮らしとDEIー「認知症観」から考える個の尊重ー
笠貫 浩史（聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室）
- SY11-3 「まずご本人にお伺いしても良いですか」から始まる認知症診療
北村 ゆり（医療法人鳴子会菜の花診療所）

- SY11-4 認知症当事者から学ぶインクルーシブなまちづくり**
党 一浩（株式会社メディアヴァ／福岡市認知症フレンドリーセンター）

シンポジウム 12

11月13日(金) 13:05～14:45 （第7会場 つくば国際会議場 4F 中会議室406）

認知症の診療・ケアにおける公認心理師の役割と実践：認知症医療の入口から終末期まで

- 座長：松田 修（上智大学総合人間科学部心理学科）
扇澤 史子（東京都健康長寿医療センター臨床心理科）

- SY12-1 街ぐるみ認知症相談センターにおける受診前相談の取り組み**
稲垣 千草（日本医科大学武蔵小杉病院街ぐるみ認知症相談センター）
- SY12-2 心理検査の役割と意義：認知症医療における適正使用と活用促進**
松田 修（上智大学総合人間科学部心理学科）
- SY12-3 抗A β 抗体薬治療に関わる心理師の役割～意義と課題について～**
田所 正典（聖マリアンナ医科大学病院心理・精神保健福祉技術部）
- SY12-4 認知症診断後の本人・家族の心理社会的支援に公認心理師が関わる意義と制度的課題**
松田 千広（イムス明理会東京町田病院臨床心理室）
- SY12-5 チーム医療における認知症とともに生きる人への身体疾患入院から看取りまでの心理支援**
扇澤 史子（東京都健康長寿医療センター臨床心理科）

シンポジウム 13

11月13日(金) 13:05～14:45 （第8会場 つくばカピオ 1F ホール）

身体運動・動作特性に基づく認知症の超早期予測と予防介入ーMCI・プレクリニカル期に着目してー

- 座長：大藏 倫博（筑波大学体育系健康増進学）
根本みゆき（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学）

- SY13-1 身体動作特性に基づく認知機能低下の超早期兆候**
薛 載勲（成均館大学スポーツ科学科／筑波大学テラーメイド QOL プログラム開発研究センター／筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構／国立長寿医療研究センターフレイル研究部）
- SY13-2 身体活動・スクエアステップ運動と認知機能およびアミロイド指標**
尹 之恩（筑波大学体育系）
- SY13-3 デジタルバイオマーカーによる認知症・MCIの早期検出**
小林 正朋（IBM Research）
- SY13-4 MCIに対する多因子介入の実践と課題**
根本みゆき（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学）
- SY13-5 運動による脳老廃物クリアランスと認知症予防の生理学的機序**
樽味 孝（国立研究開発法人産業技術総合研究所／国立大学法人筑波大学／Institute for Exercise and Environmental Medicine）

シンポジウム 14

11月13日(金) 14:55~16:35 (第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102)

認知症病態イメージングの最前線

座長：島田 齊 (千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)
互 健二 (量子科学技術研究開発機構)

SY14-1 アミロイドPETのヒストグラムを用いた新規客観的評価法の開発
奥山 智緒 (滋賀県立総合病院臨床研究センター)

SY14-2 タウPETイメージングに基づく老年期精神神経疾患の病態解明
久保田 学 (京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座 (精神医学) /
量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究センター)

SY14-3 AMPA受容体PETイメージングによるシナプス病態と可塑的变化の画像化
阿部 弘基 (横浜市立大学大学院医学研究科生理学)

SY14-4 [¹⁸F]SMBT-1によるReactive astrogliosisの画像化とAD病態における意義
原田 龍一 (東北医科薬科大学 / 東北大学先端量子ビーム科学研究センター)

SY14-5 次世代ミクログリアPETイメージングーCSF1Rを標的とした脳内ミクログリアの可視化
木村 泰之 (国立研究開発法人国立長寿医療研究センター研究所認知症先進医療開発センター脳機能画像
診断開発部)

シンポジウム 15

11月13日(金) 14:55~16:35 (第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200)

glymphatic system の機能と認知症病態

座長：太田 深秀 (筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)
佐藤 典子 (国立精神・神経医療研究センター病院放射線診療部)

SY15-1 DTI-ALPS法の現在
田岡 俊昭 (名古屋大学大学院医学系研究科革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座)

SY15-2 O17標識水MRIによる脳脊髄液・間質液動態の解析
亀田 浩之 (北海道大学大学院医学研究院)

SY15-3 AQP4活性化によるグリンパティック輸送促進とタウ病態の制御
山田 薫 (東京大学医学部附属病院認知症共生社会創成治療学)

シンポジウム 16

11月13日(金) 14:55~16:35 (第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201)

運動・感覚刺激が拓く認知症予防の新展開

座長：岡村 信行 (東北医科薬科大学医学部薬理学)
野中 隆 (東京都医学総合研究所認知症研究プロジェクト)

SY16-1 運動ホルミシス効果による認知症予防
征矢 英昭 (筑波大学体育系運動生化学 / 筑波大学サイバニクス研究センター)

SY16-2 アルツハイマー病モデル動物を用いた認知症予防に関する研究
榊間 春利 (鹿児島大学医学部保健学科基礎理学療法学講座)

SY16-3 嗅覚による脳状態制御 ～認知症に対する疾患修飾療法の可能性～

竹内 春樹（東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻）

SY16-4 認知症領域における40Hz感覚刺激研究の現状と課題 ～光・音・ガンマ波サウンド～

長谷 芳樹（ピクシーダストテクノロジーズ株式会社）

シンポジウム 17

11月13日(金) 14:55～16:35 （第5会場 つくば国際会議場 2F 中会議室202）

認知症の人の経済的支援の最適化

座長：竹本与志人（岡山県立大学保健福祉学部現代福祉学科）

繁田 雅弘（栄樹庵診療所）

SY17-1 当事者家族からみた経済支援の現状と課題

多田 美佳（一般社団法人はるそら）

SY17-2 認知症のある人の生活を支える法制度とその活用方法

杉山 京（大阪公立大学大学院生活科学研究科）

SY17-3 診断後の継続受診を支える公費負担制度の概要と適用範囲の課題

木村亜紀子（兵庫医科大学病院認知症疾患医療センター／岡山県立大学大学院保健福祉学研究科）

SY17-4 認知症と経済問題が抑制する支援行動と支援要請

竹本与志人（岡山県立大学保健福祉学部現代福祉学科）

シンポジウム 18

11月13日(金) 14:55～16:35 （第7会場 つくば国際会議場 4F 中会議室406）

認知症観のこれまで・現在・未来

座長：笠貫 浩史（聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室）

岡村 毅（東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と精神保健研究チーム）

SY18-1 「新しい認知症観」と「共生社会」

栗田 主一（認知症介護研究・研修東京センター／東京都健康長寿医療センター）

SY18-2 農園を活用した社会的処方：新しい認知症観の醸成

宇良 千秋（東京都健康長寿医療センター研究所）

SY18-3 わが国の認知症観の歴史－認知症観は何のためにつくられ何を実現しようとしてきたのか－

井藤 佳恵（東京都健康長寿医療センター研究所）

SY18-4 診断，家族，文化，制度の交差点～認知症観の変容に関する国際比較～

郷堀ヨゼフ（淑徳大学大学院総合福祉研究科）

SY18-5 認知症観概念の構成因子について

笠貫 浩史（聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室）

シンポジウム 19

11月13日(金) 14:55~16:35 (第8会場 つくばカピオ 1F ホール)

神経炎症から読み解く認知症—感染・環境・内因をつなぐ統合モデルと予防戦略—

座長：下畑 享良 (岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野)

中嶋 秀人 (日本大学医学部神経内科学分野)

SY19-1 ウイルス感染・再活性化と神経炎症：HSV-1・SARS-CoV-2を中心に

中嶋 秀人 (日本大学医学部内科学系神経内科学分野)

SY19-2 $A\beta$ ・タウの感染防御応答はなぜneuroinflammagingへ転じるのか

横山 和正 (東静岡神経センター／順天堂大学医学部脳神経内科)

SY19-3 環境曝露と神経炎症—大気汚染(PM2.5)とマイクロ・ナノプラスチック—

下畑 享良 (岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野)

SY19-4 神経炎症を標的とした認知症予防—ワクチン・抗ウイルス薬の最新エビデンス—

森 泰子 (岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野)

シンポジウム 20

11月14日(土) 8:50~10:50 (第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102)

抗 $A\beta$ 抗体薬治療の現状・課題と今後の展望—臨床の現在地とその先へ—

座長：井原 涼子 (東京都健康長寿医療センター健康長寿イノベーションセンター臨床開発ユニット)

新美 芳樹 (東京大学医学部附属病院認知症共生社会創成治療学／早期・探索開発推進室)

SY20-1 抗 $A\beta$ 抗体薬診療の入口・治療・出口—DMC外ハイボリューム施設から

佐藤 恒太 (脳神経センター大田記念病院脳神経内科)

SY20-2 抗 $A\beta$ 抗体薬の課題～専門医向けアンケートの結果から～

新美 芳樹 (東京大学大学院医学系研究科認知症共生社会創成治療学)

SY20-3 抗 $A\beta$ 抗体薬の患者・家族調査から見てきた抗 $A\beta$ 抗体療法の課題

冨本 秀和 (三重大学大学院脳神経内科／済生会明和病院)

SY20-4 前臨床期アルツハイマー病に対する発症前介入の展望

井原 涼子 (東京都健康長寿医療センター)

SY20-5 基礎研究者から見た抗 $A\beta$ 抗体療法の現状と今後の展望

齊藤 貴志 (東京大学医学部神経病理学)

シンポジウム 21

11月14日(土) 8:50~10:50 (第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200)

認知症ゲノム・オミックス研究の進展と臨床応用

座長：池内 健 (新潟大学脳研究所ブレインヘルスケア領域)

間野 達雄 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部)

SY21-1 アルツハイマー病に対するゲノミクスの進展と臨床応用

池内 健 (新潟大学脳研究所ブレインヘルスケア領域)

SY21-2 シングルセル・空間トランスクリプトーム解析から解き明かすアルツハイマー病病態

菊地 正隆 (新潟大学脳研究所)

SY21-3 免疫チェックポイント分子によるミクログリア機能制御とアルツハイマー病

木村 公俊（京都大学大学院医学研究科多系統萎縮症治療学講座）

SY21-4 腸内細菌の機能的特徴と認知症：「細菌-脳」の視点から

佐治 直樹（国立長寿医療研究センターもの忘れセンター）

SY21-5 マルチオミクス統合によるアルツハイマー病の層別化

間野 達雄（国立精神・神経医療研究センター）

シンポジウム 22

11月14日(土) 8:50~10:50（第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201）

タウオパチーの病態解明と治療薬開発

座長：山田 薫（東京大学医学部附属病院・認知症共生社会創成治療学）

樽谷 愛理（東京都医学総合研究所臨床医科学研究分野認知症研究プロジェクト）

SY22-1 タウシード動態と細胞外プロテオーム解析から探るタウオパチー病態進展機構

山田 薫（東京大学医学部附属病院認知症共生社会創成治療学）

SY22-2 脳血流・血管周囲環境の変容から探るタウオパチー進展機構

上村麻衣子（大阪公立大学医学研究科病因診断科学）

SY22-3 アグリファジー促進を標的としたタウ凝集体分解の創薬研究

松本 弦（大阪公立大学大学院医学研究科神経疾患制御学）

SY22-4 持続性に優れた核酸医薬を用いたタウオパチー治療法開発

石垣 診祐（滋賀医科大学神経難病研究センター）

シンポジウム 23

11月14日(土) 8:50~10:50（第5会場 つくば国際会議場 2F 中会議室202）

アルツハイマー病解明における基礎研究の徹底解説：神は細部に宿る

座長：西道 隆臣（理化学研究所／慶應義塾大学医学部／株式会社理研バイオ）

橋本 翔子（滋賀医科大学創発的研究センター挑戦的研究部門）

SY23-1 グリア細胞-末梢免疫連関から見たアルツハイマー病の病態形成機構

齊藤 貴志（東京大学医学部神経病理学）

SY23-2 A β 40とA β 42を作り分けるしくみ： γ セクレターゼによる逐次切断機構

舟本 聡（同志社大学大学院生命医科学研究科神経病理）

SY23-3 ピログルタミル化A β の特性と生成機構

岩田 修永（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）

SY23-4 CAPONを介したレドックス依存性NOシグナル制御と認知症病態への関与

橋本 翔子（滋賀医科大学創発的研究センター）

SY23-5 アミロイド β の質的な違いはミクログリアに影響するかーノックイン型モデルの比較ー

永田 健一（名古屋大学大学院医学系研究科）

SY23-6 アストロサイト多様性の解明から迫るアルツハイマー病の分子病態と治療戦略

遠藤 史人（名古屋大学環境医学研究所／カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部生理学分野）

シンポジウム 24

11月14日(土) 8:50~10:50 (第7会場 つくば国際会議場 4F 中会議室406)

若年性認知症の人への医療と支援

座長：中西 亜紀（大阪公立大学大学院生活科学研究科）

鷲見 幸彦（認知症介護研究・研修大府センター）

SY24-1 若年性認知症の人への医療と支援－若年性認知症の人への医療と支援の現状と方向性－

鷲見 幸彦（認知症介護研究・研修大府センター／国立長寿医療研究センター）

SY24-2 認知症疾患医療センターにおける若年性認知症診療

武田 章敬（国立長寿医療研究センター長寿医療研修センター）

SY24-3 若年性認知症支援コーディネーターの役割

齊藤 千晶（認知症介護研究・研修大府センター）

SY24-4 働くことと認知症－診断後もその人らしく生きるために－

表 志津子（金沢大学医薬保健研究域保健学系）

SY24-5 若年性認知症施策の現状と課題～共生社会の実現を推進するための認知症基本法への期待～

中西 亜紀（大阪公立大学生生活科学研究科）

シンポジウム 25

11月14日(土) 8:50~10:50 (第8会場 つくばカピオ 1F ホール)

脳血管周囲環境と神経変性：グリア・免疫・血管のクロストーク

座長：新堂 晃大（三重大大学脳神経内科学）

富田 泰輔（東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室）

SY25-1 脳アミロイド血管症における血管周囲環境の変容と排泄機構の破綻

眞木 崇州（京都大学医学部脳神経内科）

SY25-2 脳小血管病の分子機構と遺伝学的背景－RVCLにみる血管・グリア・免疫連関－

安藤昭一朗（新潟大学医歯学総合病院脳神経内科）

SY25-3 脳血管を基軸とした血管周囲細胞群の病態生理学的役割の検討

山本 誠士（富山大学学術研究部医学系）

SY25-4 リンパ管のイメージングとリンパ弁の形成機構

久保田義顕（慶應義塾大学医学部解剖学教室）

SY25-5 血管周囲微小環境の力学基盤：血流と基底膜剛性による血管新生制御原理

西山 功一（宮崎大学医学部機能制御学講座血管動態生化学分野）

シンポジウム 26

11月14日(土) 13:05~14:45 (第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102)

認知症の早期診断・早期治療における告知, Shared Decision Making, 意思決定支援

座長：成本 迅（京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学）

東 晋二（東京医科大学茨城医療センターメンタルヘルス科）

SY26-1 疾患修飾薬の意思決定の背景にある当事者の社会心理的背景

東 晋二（東京医科大学茨城医療センターメンタルヘルス科）

- SY26-2 抗体医薬時代の診断告知は、何を変えたのかー認知症診療におけるSDMと診断後支援**
井藤 佳恵（東京都健康長寿医療センター研究所）
- SY26-3 認知症診療における、告知と意思決定支援の法的観点からの意義**
小賀野晶一（京都府立医科大学）
- SY26-4 認知症診療における意思決定能力評価と支援ーMacCAT-Tの臨床応用ー**
加藤 佑佳（京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学）
- SY26-5 疾患修飾薬時代の患者説明ー最新知見を意思決定につなげるー**
井原 涼子（東京都健康長寿医療センター）

シンポジウム 27

11月14日(土) 13:05~14:45（第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200）

認知症臨床におけるMild Behavioral Impairment (MBI) の意義

座長：松岡 照之（京都府立医科大学大学院精神機能病態学／NHO 舞鶴医療センター精神科）
小林 良太（藤田医科大学医学部認知症・加齢脳科学科）

- SY27-1 MBIの概要，ADの初期症状としてのNPS，MBIについて**
松岡 照之（京都府立医科大学大学院精神機能病態学／NHO 舞鶴医療センター精神科）
- SY27-2 Mild Behavioral Impairmentの概念の中での脳血管障害**
船山 道隆（足利赤十字病院神経精神科）
- SY27-3 DLBの初期症状としてのNPSとMBI**
小林 良太（藤田医科大学医学部認知症加齢脳科学科）
- SY27-4 FTLDの前駆症状・初期症状としてのNPS，MBI**
品川俊一郎（東京慈恵会医科大学精神医学講座）

シンポジウム 28

11月14日(土) 13:05~14:45（第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201）

分子メカニズムから読み解く老化・神経変性疾患の性差

座長：安藤香奈絵（東京都立大学大学院理学研究科生命科学科）
齊藤 祐子（東京都健康長寿医療センター神経病理（高齢者ブレインバンク））

- SY28-1 性ホルモン・栄養シグナルによるミクログリアの機能制御とアルツハイマー病の性差形成**
溝上 颯子（九州大学大学院歯学研究院 OBT 研究センター）
- SY28-2 糖尿病での性差を捉えた認知障害の分子メカニズム**
笹岡 利安（富山大学末病研究センター／富山赤十字病院）
- SY28-3 カロリー制限効果の性差と加齢に伴う変化**
生島 芳子（東北大学 SiRIUS（医学イノベーション研究所）医学創生研究部）
- SY28-4 性ホルモン受容体による神経エピゲノム制御とアルツハイマー型認知症発症機構**
高山 賢一（東京都健康長寿医療センター加齢変容研究チーム分子細胞代謝）

シンポジウム 29

11月14日(土) 13:05~14:45 (第5会場 つくば国際会議場 2F 中会議室202)

認知症フレンドリー地域の実現に向けた多角的な心理・社会的支援

座長：山中 克夫（筑波大学人間系）

目 麻里子（筑波大学医学医療系）

SY29-1 多角的な心理・社会的支援の全体像及び本人への心理的支援

山中 克夫（筑波大学人間系）

SY29-2 認知症の人の社会参加を実現するために：先進的实践から考える障壁と手がかり

河野 禎之（筑波大学人間系）

SY29-3 認知症フレンドリー地域における介護家族への心理的支援

樫村 正美（常磐大学人間科学部心理学科）

SY29-4 認知症フレンドリー地域を支えるBPSD対応と職員支援

野口 代（新潟青陵大学福祉心理子ども学部社会福祉学科）

SY29-5 認知症理解の普及促進と認知症フレンドリー地域の実現に向けた取り組み

目 麻里子（筑波大学医学医療系）

シンポジウム 30

11月14日(土) 13:05~14:45 (第7会場 つくば国際会議場 4F 中会議室406)

「診断」から「伴走」へ～診断後支援における認知症リハビリテーション～

座長：北村 立（石川県立こころの病院）

池田 学（大阪精神医療センター脳とこころの未来医療センター／大阪大学健康支援・相談センター）

SY30-1 認知症における『空白の期間』の実態と支援連携の課題

矢吹 知之（高知県立大学社会福祉学部）

SY30-2 早期診断，早期治療の動向と診断後支援における作業療法への期待～医師の立場から～

嶽北 佳輝（関西医科大学医学部精神神経科学講座）

SY30-3 診断後の生活支援を目指したリハビリテーション実践～大学病院における作業療法実践～

石丸 大貴（大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室／大阪大学医学部附属病院医療技術部リハビリ部門）

SY30-4 早期受診者への伴走支援：当院と診断後支援センターハルカゼの取り組み

泉 里加子（NPO 法人認知症予防・診断後支援センター HARUKAZE（ハルカゼ）／
（医）医誠会介護老人保健施設みつぐ苑）

シンポジウム 31

11月14日(土) 13:05~14:45 (第8会場 つくばカピオ 1F ホール)

認知症の本人と家族等による研究への参画を考える

座長：新美 芳樹（東京大学医学部附属病院認知症共生社会創成治療学／早期・探索開発推進室）

栗田駿一郎（日本医療政策機構）

SY31-1 認知症当事者から見るPPIへの期待と課題

山中しのぶ（一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ）

- SY31-2 研究ニーズ探索の実践を通じて考える認知症研究への本人・家族等の参画**
森口 奈菜（特定非営利活動法人日本医療政策機構）
- SY31-3 精神保健分野における患者市民参画と共同創造**
山口 創生（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部）
- SY31-4 PPIは何を目指すのかー希少疾患領域における実践から**
古結 敦士（京都大学大学院医学研究科医療倫理学）
- SY31-5 患者・市民参画の現状と課題**
武藤 香織（東京大学医科学研究所公共政策研究分野／
理化学研究所生命医科学研究センター生命医科学倫理とコ・デザイン研究チーム）

シンポジウム 32

11月14日(土) 14:55～16:35 （第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102）

診断後の“次の一手”を整える産学官連携：CADASILと患者市民参画

座長：猪原 匡史（国立循環器病研究センター脳神経内科）
水田依久子（京都府立医科大学大学院医学研究科脳神経内科学）

- SY32-1 CADASIL診療における遺伝カウンセリングが果たす役割を考える**
安藤昭一朗（新潟大学医歯学総合病院脳神経内科）
- SY32-2 CADASIL診療の現在地と課題：Physician-Scientistの視点**
齊藤 聡（国立循環器病研究センター脳神経内科）
- SY32-3 AMEDにおける患者・市民参画（PPI/E）の取組**
勝井 恵子（国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED））
- SY32-4 CADASILの当事者として生きる，支え合う**
患者当事者
- SY32-5 CADASIL治療薬の研究開発**
縄野 雅夫（株式会社ファーマフーズ）

シンポジウム 33

11月14日(土) 14:55～16:35 （第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200）

認知症診療と支援におけるトラスト形成支援ー非対面支援とAI活用の可能性ー

座長：加藤 佑佳（京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学）
江口 洋子（慶應義塾大学医学部医科学研究連携推進センター）

- SY33-1 非対面支援時代におけるトラスト形成支援の課題：認知症支援の現場から**
加藤 佑佳（京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学）
- SY33-2 認知的脆弱性を有する高齢者の信頼判断と詐欺被害予防**
上野 大介（京都女子大学現代社会学部現代社会学科／京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学）
- SY33-3 認知症の人を支援する信頼性の高い対話型AIエージェントの設計および開発**
シリアーラヤ パノット（京都工芸繊維大学）
- SY33-4 認知症支援現場におけるトラスト形成支援の社会実装に向けた課題と展望**
松岡 照之（京都府立医科大学大学院精神機能病態学／NHO 舞鶴医療センター精神科）

シンポジウム 34

11月14日(土) 14:55~16:35 (第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201)

タウ病態と脳ネットワークのレジリエンス：認知症の超早期診断と予防戦略

座長：石垣 診祐（滋賀医科大学神経難病研究センター）
畑 純一（東京都立大学大学院人間健康科学研究科）

SY34-1 背側海馬台-VTA回路の脆弱性とタウ標的治療への示唆
藤岡 祐介（滋賀医科大学神経難病研究センター神経診断治療学部門）

SY34-2 嗅内野タウ伝播を阻止する脳のレジリエンス：同期シグナルによる認知症予防制御
高島 明彦（学習院大学理学部生命分子科学研究所）

SY34-3 タウ病態におけるアストロサイト-神経代謝連関の破綻
小野麻衣子（量子科学技術研究開発機構）

SY34-4 ヒトのタウPET画像と経路統合能から考えるアルツハイマー病の最初期病態
渡辺 宏久（藤田医科大学医学部脳神経内科学）

シンポジウム 35

11月14日(土) 14:55~16:35 (第5会場 つくば国際会議場 2F 中会議室202)

高齢者の孤独・孤立の現状と対策

座長：忽滑谷和孝（東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科）
太刀川弘和（茨城県立こころの医療センター／筑波大学医学医療系精神医学）

SY35-1 中高年者における孤独感：性・婚姻状況別にみた現状と課題
小林江里香（東京都健康長寿医療センター研究所社会参加とヘルシーエイジング研究チーム）

SY35-2 孤立・孤独問題と地域医療
太刀川弘和（茨城県立こころの医療センター／筑波大学医学医療系精神医学）

SY35-3 孤独を抱える高齢者への精神療法
新村 秀人（大正大学臨床心理学部臨床心理学科／慶應義塾大学医学部精神神経科学教室）

SY35-4 高齢者の孤独予防（防止）のための社会参加支援策
前田 展弘（株式会社ニッセイ基礎研究所）

シンポジウム 36

11月14日(土) 14:55~16:35 (第7会場 つくば国際会議場 4F 中会議室406)

認知症初期支援が描く本人・家族のレジリエンスと介護支援の継続性

座長：山川みやえ（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻老年看護学教室）
繁信 和恵（（公財）総合病院浅香山病院精神科）

SY36-1 認知症介護におけるレジリエンス向上の為に初期対応と地域包括の役割
小河 拓人（千里丘地域包括支援センター）

SY36-2 かかりつけ医の家族支援；伴走型支援の持続性・世代継承性とかかりつけ医の世代継承性
太田 俊輔（太田医院）

SY36-3 認知症疾患の診断直後の不確実性
繁信 和恵（公益財団法人浅香山病院／大阪大学大行動神経学神経精神医学寄附講座）

SY36-4 いち認知症医療センターの実践～パーキングセンターin飯塚での取り組みを通じて～
江頭 関巳（医療法人社団豊永会飯塚記念病院福岡県認知症医療センター）

SY36-5 診断後の心理的移行を支える：家族の心理プロセスとその支援
大庭 輝（弘前大学大学院保健学研究科）

シンポジウム 37

11月14日(土) 14:55～16:35（第8会場 つくばカピオ 1F ホール）

認知症治療の多面的価値評価

座長：五十嵐 中（東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学）
齋藤 英子（東京大学大学院新領域創成科学研究科附属サステナブル社会デザインセンター）

SY37-1 抗アミロイドβ抗体薬治療ストラテジー～アルツハイマー病先制医療をどう考えるか～
伊東 大介（慶應義塾大学医学部内科（神経）／メモリーセンター）

SY37-2 認知症治療の多面的価値評価－厚労省班研究の結果から－
新井 哲明（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学）

SY37-3 認知症の進行をいかに遅らせるか－在宅医療が実践する入院回避と多面的アプローチ－
高瀬 義昌（医療法人社団至高会たかせクリニック）

SY37-4 企業の立場からみた多面的価値評価
富田 清行（エーザイ株式会社）

シンポジウム 38

11月15日(日) 8:50～10:30（第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102）

ガイドラインを踏まえ、その一歩先を行くBPSDの治療－エビデンスから個別化へ－

座長：品川俊一郎（東京慈恵会医科大学精神医学講座）
馬場 元（順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック）

SY38-1 BPSDに対するガイドラインの現在地
品川俊一郎（東京慈恵会医科大学精神医学講座）

SY38-2 コリンエステラーゼ阻害薬レスポnderの見極め
西尾 慶之（大阪大学行動神経学・神経精神医学寄附講座）

SY38-3 抗精神病薬の使用場面、薬剤選択、用量設定
永田 智行（医療法人永光会あいらの森ホスピタル認知症疾患医療センター／
東京慈恵会医科大学精神医学講座）

SY38-4 抗うつ薬は有用なのか？－BPSDにおける抗うつ薬の適正使用を考える－
馬場 元（順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック／
順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学）

SY38-5 認知症の重度NPS治療における電気けいれん療法（ECT）の位置付け
小林又三郎（大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室）

シンポジウム 39

11月15日(日) 8:50~10:30 (第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200)

老年期せん妄の予防とマネジメント

座長：八田耕太郎（順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学）
小川 朝生（国立研究開発法人国立がん研究センター東病院）

SY39-1 エビデンスに基づくせん妄ハイリスク患者の同定と予防的対応
小川 朝生（国立がん研究センター東病院）

SY39-2 生物学的アプローチによるせん妄ハイリスク患者の同定
西澤 由貴（大阪医科薬科大学神経精神医学教室）

SY39-3 せん妄予防における非薬物的介入と薬物的介入
貞廣 良一（国立がん研究センター）

SY39-4 せん妄のマネージメント
八田耕太郎（順天堂大学医学部附属練馬病院）

シンポジウム 40

11月15日(日) 8:50~10:30 (第5会場 つくば国際会議場 2F 中会議室202)

FTLD-FUS再考

座長：長谷川成人（東京都医学総合研究所）
横田 修（きのこエスポアール病院／岡山大学医学部）

SY40-1 OnariとSpatzのピック病からTAF15まで：歴史的背景
横田 修（きのこエスポアール病院／岡山大学医学部）

SY40-2 FTLD-FET/TAFと若年発症bvFTDの臨床神経病理
木村 朴（東京都医学総合研究所臨床医科学研究分野認知症研究プロジェクト／
順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学／東京都立松沢病院精神科）

SY40-3 全国レジストリFTLD-Jからみた日本人前頭側頭型認知症の遺伝学的背景
森 康治（大阪大学大学院医学系研究科精神医学）

SY40-4 構造生化学的視点から考える新たな疾患分類：FTLD-TAF15
樽谷 愛理（東京都医学総合研究所臨床医科学研究分野認知症研究プロジェクト）

シンポジウム 41

11月15日(日) 8:50~10:30 (第7会場 つくば国際会議場 4F 中会議室406)

災害時の認知症支援ー過去に学び未来に備えるー

座 長：秋山 治彦（横浜市立脳卒中・神経脊椎センター MCI・認知症センター）
加藤 伸司（東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科／認知症介護研究・研修仙台センター）
追加発言：和田 健二（川崎医科大学認知症学）

SY41-1 災害時における認知症の人と家族のケア～東日本大震災時の避難所の状況に学ぶ～
加藤 伸司（東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科／認知症介護研究・研修仙台センター）

SY41-2 熊本地震の支援活動～支援活動可視化の重要性
山崎 正人（スタジオ代）

SY41-3 DPATなど医療系派遣型支援の役割と課題

高橋 晶（筑波大学附属病院茨城県災害・地域精神医学研究センター／茨城県立こころの医療センター／筑波メディカルセンター病院精神科）

SY41-4 日本認知症学会老健事業調査から～能登半島地震を中心に～

中西 亜紀（大阪公立大学大学院生活科学研究科）

シンポジウム 42

11月15日(日) 8:50～10:30 （第8会場 つくばカピオ 1F ホール）

iNPH Societyを広げるために

座長：数井 裕光（高知大学医学部神経精神科学講座）
貴島 晴彦（大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科学）

SY42-1 特発性正常圧水頭症 (iNPH) の精神症状

茶谷 佳宏（高知大学医学部神経精神科学講座）

SY42-2 Non DESH タイプの水頭症

中島 円（順天堂大学医学部附属順天堂医院脳神経外科）

SY42-3 iNPHと神経変性疾患－併存の見極めと治療法の選択－

末廣 聖（大阪大学大学院医学系研究科精神医学講座）

SY42-4 iNPHの白質の病態

田岡 俊昭（名古屋大学大学院医学系研究科革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座）

SY42-5 20年ぶりの国際iNPH診療ガイドライン改定の概要

山田 茂樹（名古屋市立大学脳神経外科学講座／東京大学大学院生産技術研究所）

シンポジウム 43

11月15日(日) 13:05～14:45 （第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール）

認知症疾患医療センターの役割：現状と展望

座長：栗田 主一（社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター）
武田 章敬（国立長寿医療研究センター長寿医療研修センター）

SY43-1 認知症疾患医療センターの事業実績の変遷と求められる役割の変化

栗田 主一（認知症介護研究・研修東京センター／東京都健康長寿医療センター）

SY43-2 一般病院の認知症疾患医療センターに求められる役割

武田 章敬（国立長寿医療研究センター長寿医療研修センター）

SY43-3 精神科病院が担う認知症疾患医療センターの役割と展望－診断から診断後支援へ－

深澤 隆（医療法人財団青仁会青南病院）

SY43-4 基幹型認知症疾患医療センターに求められる役割

新井 哲明（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学）

SY43-5 実践知をつなぐ認知症疾患医療センター全国研修会

田中 志子（医療法人大誠会内田病院／一般社団法人認知症疾患医療センター全国研修会）

シンポジウム 44

11月15日(日) 13:05~14:45 (第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102)

アミロイドの凝集と脱凝集から理解するプロテノパチーの病態

座長：佐原 成彦（新潟大学脳研究所脳病態評価技術創生学分野）
田中 元雅（国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター）

SY44-1 プロテノパチーの病態解明を目指したアミロイドの統合的理解へ向けて

田中 元雅（国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター）

SY44-2 アルツハイマー型タウ線維の高次集合に伴う脱凝集耐性

玉井 真悟（理化学研究所脳神経科学研究センター）

SY44-3 Co-translational nascent polypeptide aggregation in neurodegenerative disorders

遠藤 良（理研 CBS タンパク質構造疾患研究チーム）

SY44-4 TDP-43-LCDの病原性変異の物理化学的性質

真板 宣夫（量子科学技術研究開発機構量子生命科学研究所）

SY44-5 タウ凝集伝播モデルを用いた凝集・脱凝集メカニズムの探索

佐原 成彦（新潟大学脳研究所脳病態評価技術創生学分野）

シンポジウム 45

11月15日(日) 13:05~14:45 (第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200)

かつてDementia praecox (早発性痴呆) と呼ばれた疾病理解はどう進展したか？

ー精神疾患と認知機能障害・認知症の関係ー

座長：入谷 修司（桶狭間病院附属脳研究所）
羽瀧知可子（愛知県精神医療センター精神科）

SY45-1 統合失調症概念の歴史的変遷ー認知機能の観点を踏まえて

笠貫 浩史（聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室）

SY45-2 精神科診断で初発した認知症患者の剖検例から

小林 良太（藤田医科大学医学部認知症・加齢脳科学科／山形大学医学部精神医学講座／
福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座）

SY45-3 統合失調症の陰性症状と認知機能障害の器質的理解ー神経発達から加齢・神経変性までー

竹田 和弘（名古屋大学医学部附属病院精神科）

SY45-4 双極症(双極性感情障害)の長期経過と認知症

関口 裕孝（桶狭間病院藤田こころケアセンター）

SY45-5 精神疾患の死後脳研究の疾病理解における有用性

大島 健一（東京都立松沢病院）

シンポジウム 46

11月15日(日) 13:05~14:45 (第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201)

認知症性疾患診療・研究における医科-歯科連携

座長：眞鍋 雄太（神奈川歯科大学歯学部臨床先端医学系認知症医科学分野）
橋本 衛（近畿大学医学部精神神経科学教室）

SY46-1 口腔機能の低下と認知機能障害：疫学的知見の整理
釘宮 嘉浩（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 歯科口腔外科部）

SY46-2 咀嚼と認知機能・認知症との関連性－臨床研究からの考察－
木本 克彦（神奈川歯科大学歯科補綴学講座クラウンブリッジ補綴学分野）

SY46-3 医科でも可能な歯科的評価
笛木 賢治（東京科学大学咬合機能健康科学分野）

シンポジウム 47

11月15日(日) 13:05~14:45 (第5会場 つくば国際会議場 2F 中会議室202)

認知症の終末期医療・ケア

座長：井藤 佳恵（東京都健康長寿医療センター研究所福祉と生活ケア研究チーム）
成本 迅（京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学）

SY47-1 終末期医療の法と倫理について－民法の視点から
小賀野晶一（京都府立医科大学）

SY47-2 タツトリかノトナレか——認知症終末期における意思決定支援の課題
児玉 聡（京都大学大学院文学研究科）

SY47-3 終末期医療の倫理的課題について－精神医療の視点から
井藤 佳恵（東京都健康長寿医療センター研究所）

SY47-4 認知症の人の終末期における臨床課題について 緩和ケアの視点から
小川 朝生（国立がん研究センター東病院精神腫瘍科）

認知症CPC

11月15日(日) 8:50~10:30 (第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201)

座長：齊藤 祐子 (東京都健康長寿医療センター神経病理 (高齢者ブレインバンク))
他田 真理 (新潟大学脳研究所脳資源科学分野・病理学分野)

症例 1：ヒトの顔が分からず、本人自覚のない尿便失禁を特徴とし、緩徐進行性失語を示した、75 歳発症、89 歳死亡の男性例

臨床担当：東京都健康長寿医療センター神経病理 (高齢者ブレインバンク) 村山 繁雄
病理担当：東京都健康長寿医療センター神経病理 (高齢者ブレインバンク) 青木 華古
ディスカッサント：鳥取大学神経病理学分野 足立 正

症例 2：振戦を伴い、一過性脳虚血発作様症状を繰り返しながら認知機能障害が進行した 1 例

臨床担当：国立病院機構西新潟中央病院脳神経内科 黒羽 泰子
病理担当：新潟大学脳研究所病理学分野／新潟大学ひと脳研究資源イニシアチブ推進センター ChBRI 井上 穰
新潟大学脳研究所病理学分野／新潟大学ひと脳研究資源イニシアチブ推進センター ChBRI 清水 宏
ディスカッサント：新潟県立新発田病院脳神経内科 福島 隆男

【概要】

認知症の背景病理の最終確定診断は、現在においてもなお剖検病理診断に依拠している。本 CPC では、病態の大きく異なる希少疾患を 2 施設から 1 例ずつ呈示する。いずれも長期の臨床経過を有しており、神経・精神症状の推移と各種バイオマーカーの変化について、剖検の承諾を得た症例を対象に、病理所見と対比しながら詳細に検討する。

本来、実臨床においては common disease への対応が中心となるが、鑑別診断に挙がらない疾患は診断に至り得ないという側面も重要である。本企画では、希少疾患を通じて診断過程を振り返ることにより、臨床医に求められる思考の柔軟性を再認識するとともに、日常診療への示唆を得ることを目的とする。各症例について参加者とともに多角的に考察を深めたい。

日本認知症学会 研究者交流プログラム

11月13日(金) 18:00~19:30 (第7会場 つくば国際会議場 4F 中会議室406)

認知症の症候・画像・神経病理から分かることー遺伝性認知症を中心にー

座長：舟本 聡 (同志社大学大学院生命医科学研究科)

演者：川勝 忍 (福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座)

日本老年精神医学会 簡易な神経所見のとり方実践講座

11月15日(日) 13:40~16:40 (第7会場 つくば国際会議場 4F 中会議室406)

※当日の参加受付はございません

1. 趣旨説明と問診事項の解説

浦上 克哉 (鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座)

2. 病的所見の画像を用いた解説

三品 雅洋 (東京労災病院)

3. 実践講習

石渡 明子 (日本医科大学付属病院認知症先端治療センター)

浦上 克哉 (鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座)

高橋 純子 (北上済生会病院)

野村 浩一 ((医)SHIODA 塩田病院脳神経内科)

三品 雅洋 (東京労災病院)

山崎 明子 (日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター, 脳神経内科)

涌谷 陽介 (倉敷平成病院脳神経内科・認知症疾患医療センター)

日本老年精神医学会 作業療法セミナー

11月15日(日) 8:55~16:00 (セミナー会場 つくば国際会議場 4F 小会議室405)

※当日の参加受付はございません

1. 認知症および鑑別を要する老年精神疾患の基礎

(各原因疾患の特徴, 症状, 予後, 薬物療法)

吉村 匡史 (関西医科大学リハビリテーション学部作業療法学科)

2. 認知症のADL/IADLを中心とした評価と介入の基礎

長倉 寿子 ((一社)日本作業療法士協会)

3. 認知症のADL/IADL介入の実際

(在宅を中心に医師との連携, 実践プロトコル演習)

堀田 牧 (熊本大学病院神経精神科/大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室)

山口 智晴 (群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法学科)

日本認知症学会 学会賞受賞講演

11月14日(土) 15:10~15:40 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

細胞外タウの放出から排出まで—神経変性疾患の新たな病態理解

座長: 小野寺 理 (新潟大学)

演者: 山田 薫 (東京大学医学部附属病院・認知症共生社会創成治療学)

映画上映会

11月15日(日) 13:10~15:10 (第8会場 つくばカピオ 1F ホール)

1. 開会あいさつ：

三村 将 (慶應義塾大学予防医療センター)

2. 映画上映「妻の病ーレビー小体型認知症ー」

3. 対談：

三村 将 (慶應義塾大学予防医療センター)

伊勢 真一 (映画監督)

4. 閉会あいさつ：

三村 将 (慶應義塾大学予防医療センター)

市民公開講座 もの忘れとともに生きる

11月15日(日) 15:20~17:30 (第8会場 つくばカピオ 1F ホール)

1. 開会あいさつ：

新井 哲明 (第45回日本認知症学会学術集会 第41回日本老年精神医学会 合同大会会長
筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)

2. 第1部 特別対談

中島 京子 (作家)

新井 哲明 (第45回日本認知症学会学術集会 第41回日本老年精神医学会 合同大会会長
筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)

3. 第2部 「もの忘れとともに生きる」を地域で支える

- (1) 認知力アッププログラムを知ろうー参加者の声とともに
- (2) 看護学生による認知症の理解促進に向けた取り組み
- (3) つくば市による支援の取り組み

4. 閉会あいさつ：

成島 淨 (医療法人成島クリニック)

共催セミナー

ランチョンセミナー 1

11月13日(金) 12:00~12:50 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

BPSDは“いつ”介入すべきかーアルツハイマー病におけるNPSのネットワーク解析から見たアジテーションの早期介入への提言ー

共催：大塚製薬株式会社

座長：池内 健（新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野）

LS1 新井 哲明（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学）

【概要】

神経精神症状（NPS）はアルツハイマー病（AD）患者の多くに認められ、患者 QOL や介護者負担に大きな影響を及ぼす。一方で、個々の症状がどのような時間軸で出現し、相互に関連するかについての知見は限られている。本講演では、日本の電子カルテデータを用いた症状ネットワーク解析から明らかになった NPS の時間的パターンを紹介し、特にアジテーションに着目して、その前兆となる症状や進展過程を踏まえた早期介入の可能性について考察するとともに、新たな治療選択肢であるプレクスピラゾールの有効活用につながる臨床的示唆を提示する。

ランチョンセミナー 2

11月13日(金) 12:00~12:50 (第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102)

認知症患者診療ガイドラインおよび抗アミロイドβ抗体薬治療のアップデート

共催：日本イーライリリー株式会社 研究開発・メディカルアフェアーズ統括本部

座長：清水聡一郎（東京医科大学高齢診療科）

LS2-1 認知症患者診療ガイドライン2026の改訂ポイントとこれからの認知症診療
和田 健二（川崎医科大学認知症学）

LS2-2 抗アミロイドβ抗体薬治療のアップデートー投与完了の意義
栗原 正典（地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター脳神経内科）

【概要】

本講演では、最新の「認知症患者診療ガイドライン 2026」における改訂の要点を包括的に解説する。診断技術の進歩や治療選択肢の拡大を踏まえた臨床における変更点を整理し、本人や家族の意思決定支援や地域連携を含む、今後の認知症診療の実践的な在り方について提示する。続いて、アルツハイマー病の実臨床に導入された抗アミロイドβ抗体薬 2 剤を取り上げる。両剤ともに 18 ヶ月間の臨床試験で有効性を示し承認されたが、標的とするアミロイドβや試験デザインの違いから投与完了に対する考え方が異なる。薬剤承認から 2-3 年が経過し症例が蓄積するなかで、投与開始から 12-18 ヶ月を経た症例の経過や患者・家族とのコミュニケーションについて、投与完了の意義を中心に概説する。

ランチョンセミナー 3

11月13日(金) 12:00~12:50 (第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200)

抗認知症薬

共催：興和株式会社

座長：葛谷 聡（国立病院機構宇多野病院）

LS3-1 アルツハイマー病医療の意義を再考する－Precision Medicine時代に－

黒田 岳志（昭和医科大学医学部内科学講座脳神経内科学部門）

LS3-2 抗A β 抗体薬時代のアルツハイマー病治療－症状改善を支えるアリドネパッチの臨床的意義－

伊賀 淳一（愛媛大学大学院精神神経科学講座）

【概要】

講演1：アルツハイマー病医療は、認知症発症後の対症療法から、予防と治療により認知症への移行を可能な限り遅らせる医療へと変化している。本講演では、Precision Medicineの視点から、早期診断・早期治療へとつなげる医療と、患者・家族の生活や社会参加を支えるアルツハイマー病医療の意義について考察する。

講演2：抗A β 抗体薬の登場により、アルツハイマー病治療は病態修飾と症状改善を組み合わせる時代となった。本講演では、アリドネパッチの薬理、臨床試験、実臨床での有用性と皮膚症状への対応を整理し、抗A β 抗体薬との併用を含む治療継続の工夫を症例とともに考察する。

ランチョンセミナー 4

11月13日(金) 12:00~12:50 (第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201)

アルツハイマー病診療における血液バイオマーカーの活用と今後の展望

共催：富士レピオ株式会社／H.U.フロンティア株式会社／株式会社エスアールエル

座長：山田 正仁（国家公務員共済組合連合会九段坂病院）

LS4 岩田 淳（地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター）

【概要】

抗A β 抗体薬は、国民皆保険下で最適使用推進ガイドラインに基づき導入されているが、治療対象となり得る患者への到達はなお限られ、早期介入による生活機能維持と介護負担軽減という目標には道半ばである。普及を阻む大きな壁の一つが、PET・脳脊髄液検査へのアクセスである。本講演では、p-tau217やA β 42/40比などの血液バイオマーカーについて、特性、交絡因子、判定限界、確認検査へのつなぎ方を整理し、実臨床での安全かつ適切な活用法を概説してみたい。

ランチョンセミナー 5

11月13日(金) 12:00~12:50 (第5会場 つくば国際会議場 2F 中会議室202)

認知症と不眠症

共催：第一三共株式会社

座長：数井 裕光（高知大学医学部神経精神科学講座）

LS5-1 睡眠からウェルビーイング向上を考える

小原 知之（九州大学大学院医学研究院精神病態医学）

LS5-2 最新の不眠症治療について

内村 直尚（久留米大学）

【概要】

「睡眠」は心身の健康、行動、認知機能に深く関わる重要な要素である。認知症者では睡眠-覚醒リズムの乱れがしばしば認められ、介護者のQOLにも大きな影響を与える。本発表では、睡眠を通じたウェルビーイングの向上を臨床の視点から検討し、症状の緩和や支援のあり方について多面的に考察する。

日本人の約20%が不眠を訴え、睡眠休養感の低下は抑うつリスクや高齢者の転倒・夜間頻尿との関連も報告され、睡眠障害は身体的・精神的健康に広く影響する。本講演では、不眠症の睡眠衛生指導を含め、薬物療法・認知行動療法を組み合わせた治療戦略と睡眠障害の標榜に伴う睡眠医療ネットワーク構築について概説する。

ランチョンセミナー 6

11月13日(金) 12:00~12:50 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

共催：エーザイ株式会社／バイオジェン・ジャパン株式会社

座長：栗田 主一（社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター／東京都健康長寿医療センター
認知症未来社会創造センター）

LS6-1 認知症患者におけるインスリン療法－糖尿病領域の事例を通じた考察－

杉本 研（川崎医科大学総合老年医学）

LS6-2 アミロイド病態から考えるアルツハイマー病治療

小野賢二郎（金沢大学医薬保健研究域脳神経科学）

【概要】

演題1：インスリン療法は、認知機能、ADL、社会環境、さらには家族や介護者を含めた支援体制によって治療継続の可否が左右される代表的な治療である。本講演では、糖尿病診療をモデルケースとして、治療導入時の患者指導や継続支援における実践的な工夫を紹介し、認知症診療への応用可能性について考察する。

演題2：本講演では、可溶性Aβプロトフィブリルの病態的意義とレカネマブの作用機序について概説する。さらに、実臨床における使用経験を踏まえ、有効性・安全性に関する知見と、診療体制なども含めて、抗アミロイド抗体療法の現状と課題について考察する。

ランチンセミナー 7

11月13日(金) 12:00~12:50 (第7会場 つくば国際会議場 4F 中会議室406)

認知症診療における睡眠障害マネジメント～BPSDとケア負担軽減を目指して～

共催：株式会社ツムラ

座長：新堂 晃大（三重大学大学院医学系研究科脳神経内科学）

LS7 北薊 久雄（川崎市立川崎病院脳神経内科）

【概要】

高齢化に伴い認知症患者は増加の一途をたどっている。抗アミロイドβ抗体薬の登場により認知症診療は新たな時代を迎えたが、その適応や効果には限界があり、患者・介護者を悩ませるBPSDへの対応は依然として重要な課題である。BPSDは認知症の初期から現れることがあり、睡眠障害はBPSDや介護負担を増悪させる要因となる。非薬物療法を基本としつつ薬物療法が必要となる際、西洋薬では十分な効果が得られない場合や副作用が問題となることも少なくない。本講演では、睡眠障害およびBPSDマネジメントにおける漢方薬の役割について、症例を交えながら、ケア負担軽減の視点も含めて概説する。

ランチンセミナー 8

11月14日(土) 12:00~12:50 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

抗アミロイドβ抗体薬治療の診察・医療連携とMeaningful Benefit：患者さんおよびそのご家族とのコミュニケーション

共催：日本イーライリリー株式会社

座長：深澤 隆（青南病院）

LS8-1 病態を見える化し、対話をひらく

島田 斉（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）

LS8-2 “アルツハイマー病と共に生きる”を支える視点から診療を考える

平野 成樹（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）

【概要】

症候性早期アルツハイマー病を対象とした抗アミロイドβ抗体薬治療の時代を迎え、アミロイドPETによる病理の可視化が実現した。これにより、医師・患者・家族間で疾患理解にとどまらず、病態や治療方針に関する対話の基盤が形成された。治療開始後も薬理効果のモニタリングが治療評価の透明性を担保し、医師と患者さんならびにそのご家族への説明を通じて理解に加え、信頼関係向上にも寄与している。可視化情報はMeaningful Benefitの観点から臨床的な進行抑制評価を補完し、“自分の病気を知り、病状を把握できる”という患者・家族の満足度にも寄与する。多職種・医療機関連携のもとで「ADと共に生きる」を支える包括的な診療体制の重要性についても解説する。

ランチンセミナー 9

11月14日(土) 12:00~12:50 (第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102)

抗Aβ抗体治療の臨床的意義を考えるー実臨床における評価の工夫と今後の課題ー

共催：エーザイ株式会社メディカル本部／パイオジェン・ジャパン株式会社メディカル本部

座長：富本 秀和（済生会明和病院／三重大学大学院）

LS9 木下 彩栄（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻在宅医療・認知症学）

【概要】

抗Aβ抗体療法が臨床導入され約3年が経過し、認知機能低下や病期進行の抑制に加え、その治療効果を患者・家族が日々の生活の中で実感できる支援が求められている。患者・家族が求めているのは、認知機能検査の点数の維持ではなく、「今までどおりの生活」をできるだけ長く維持することである。医療者には、患者・家族が維持したい生活や今後の希望を具体的に理解し、日常生活の小さな変化、あるいは「変わらないこと」の価値を共有しながら伴走する姿勢が重要である。本講演では、生活機能の簡便な評価法と患者のナラティブを通して抗Aβ抗体療法の意義を考えるとともに、家族の負担も含めた長期伴走支援の課題について述べる。

ランチョンセミナー 10

11月14日(土) 12:00~12:50 (第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200)

データと臨床で考える、認知症の治療継続と介護負担軽減

共催：東和薬品株式会社

座長：新井 哲明（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学／筑波大学附属病院認知症患者医療センター）

LS10-1 日本における認知症に伴う社会経済的負担

池田 俊也（国際医療福祉大学医学部公衆衛生学）

LS10-2 認知症治療の継続を支える製剤選択～介護者負担軽減を考慮した実践～

丸木 雄一（社会福祉法人シナプス埼玉精神神経センター）

【概要】

「治療継続」と「介護者負担の軽減」は、認知症治療において極めて重要な課題である。本セミナーでは、認知症に伴う社会経済的負担の現状を国内外の研究動向を踏まえて整理し、治療がもたらす追加的価値や疾病負担を考察する。さらに、週2回貼付型製剤（リバルエン®LA パッチ）の実臨床における評価を交え、独居や施設入所者を含む幅広い患者の介護負担を考慮した実践的なアプローチを提示する。データと臨床、すなわち医療経済と実臨床の双方の視点からこれからの認知症治療戦略を展望する。

ランチョンセミナー 11

11月14日(土) 12:00~12:50 (第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201)

抗Aβ抗体薬のモニタリングを含むアミロイドPETの必要性和その解釈

共催：日本脳神経核医学研究会／日本核医学会／日本メジフィジックス株式会社

座長：小野賢二郎（金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経内科学）

LS11-1 神経精神症状をふまえた抗Aβ抗体薬のモニタリングとその意義

笠貫 浩史（聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室）

LS11-2 抗Aβ抗体薬診療におけるアミロイドPET読影－治療前後で何を見て、どう判断するか－

石井 賢二（東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム）

【概要】

講演1：ATTの意義を測る各指標の知見は蓄積し、説得力と更なる課題を同時に提起している。ATTという新たな治療文化の醸成にあたり、イメージングおよび体液バイオマーカーが臨床現場でどのように「語られるのか」を踏まえ、治療前後モニタリングの臨床的意義について、神経精神症状との関連も含めた話題を共有したい。

講演2：抗Aβ抗体薬診療では、治療導入時のAβ病理確認に加え、治療後のアミロイド除去効果を適切に評価することが重要である。本講演では、視覚読影の基本、境界例や治療後画像の注意点、VIZTrackなど診断補助ソフトの使い方と定量値の補助的活用、判定結果を臨床判断へつなげる際の要点を整理する。

ランチョンセミナー 12

11月14日(土) 12:00~12:50 (第5会場 つくば国際会議場 2F 中会議室202)

認知症リスクの解説：プロテオミクス・遺伝学・神経画像を統合した健康長寿へのアプローチ

共催：フォーネスライフ株式会社

座長：勝野 雅央（名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学）

LS12 Keenan Walker (Multimodal Imaging of Neurodegenerative Disease Section, National Institute Health (NIH))

【概要】

認知症は数十年にわたり進行するため、発症前の生物学的変化を捉えることが重要です。血漿プロテオミクス技術の進歩により、血液中のタンパク質を測定し、将来の認知症リスクや病態形成に関わる分子過程を把握可能となりました。本セミナーでは、血漿プロテオミクス、遺伝学、神経画像を統合した研究が、脳の加齢と神経変性疾患の理解をいかに深めるかを解説します。長期追跡データから、血管や炎症、代謝、免疫の経路から高リスク者を特定する手法を示します。また、血液バイオマーカーとMRI・PETを組み合わせ、全身の健康が脳に与える影響を解明します。これらの知見を通じ、早期リスク把握による認知機能維持の可能性も展望します。

ランチョンセミナー 13

11月14日(土) 12:00~12:50 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

BPSD治療におけるトレードオフをどう乗り越えるか ーブレクスピプラゾール登場後の治療戦略を考えるー

共催：大塚製薬株式会社

座長：三村 將（慶應義塾大学予防医療センター）

LS13-1 精神科救急・急性期の経験から
森川 文淑（医療法人社団圭泉会旭川圭泉会病院）

LS13-2 外来・地域連携の経験から
秋山 正則（特定医療法人緑会佐藤病院）

【概要】

行動・心理症状（BPSD）の薬物療法では、有効性と安全性の両立が重要な課題である。有効性を重視した治療では過鎮静やADL低下などの問題が生じる一方、安全性を優先するあまり十分な効果が得られず、効果不十分な治療が漫然と継続されてポリファーマシーにつながることも少なくない。本セミナーでは2名の演者より、BPSD治療における安全性と有効性のトレードオフを整理するとともに、ブレクスピプラゾールの急性期から維持期までの有用性と実践的な使用方法について概説する。認知症診療医に求められる最適な治療戦略を考える機会としたい。

ランチョンセミナー 14

11月14日(土) 12:00~12:50 (第7会場 つくば国際会議場 4F 中会議室406)

不眠症と認知症 Update ～オレキシン受容体拮抗薬の位置づけを含めて～

共催：大正製薬株式会社

座長：馬場 元（順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック）

LS14 岡 靖哲（愛媛大学医学部附属病院睡眠医療センター）

【概要】

不眠を訴える患者はあらゆる診療科で遭遇するが、認知症に伴って現れる行動・心理症状（BPSD）としても高頻度に見られる。それぞれの認知症疾患によって不眠・睡眠障害の頻度や特徴は異なる。アルツハイマー病においては、健常高齢者と比べて睡眠時間の短縮、睡眠効率の低下、睡眠の分断化、浅睡眠の増加などがみられる。レビー小体型認知症においてはレム睡眠行動異常症がみられる頻度が高い。認知症に伴う不眠症のマネジメントとしては、睡眠衛生指導などの非薬物療法が重要であるが、最近は、効果ならびに副作用に留意した上で、オレキシン受容体拮抗薬を薬物治療の選択肢とすることも多い。

ランチョンセミナー 15

11月15日(日) 12:05~12:55 (第1会場 つくば国際会議場 2F Leo Esaki メインホール)

共催：エーザイ株式会社／バイオジェン・ジャパン株式会社

座長：池内 健 (新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野)

LS15-1 レカネマブ皮下注製剤の臨床開発戦略

中川 雅喜 (エーザイ株式会社ニューロロジー日本・アジア臨床開発部)

LS15-2 これからのアルツハイマー病診療ーレカネマブの最新知見とペン製剤の臨床実装ー

武田 景敏 (大阪公立大学大学院医学研究科脳神経内科学)

【概要】

レカネマブの承認からおよそ3年が経過し、有効性・安全性に関する長期的知見が蓄積されつつある。近年、可溶性 A β プロトフィブリルの病態的意義やレカネマブ投与下での動態への理解が深まるとともに、A β 蓄積とタウ病理進展との関連も明らかになりつつある。本講演では、これらの知見を概説するとともに、当院での実臨床経験を踏まえ、認知機能指標に加えて、ADL や本人らしい生活の維持をどのように捉えるかを考察する。さらに、抗 A β 抗体治療を取り巻く診療環境を踏まえ、院内外の連携を含む治療実施体制と今後の運用のあり方について論じる。

ランチョンセミナー 16

11月15日(日) 12:05~12:55 (第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102)

アルツハイマー病連続体と血液バイオマーカー

共催：日本イーライリリー株式会社 研究開発・メディカルアフェアーズ統括本部

座長：三村 將 (慶應義塾大学予防医療センター)

LS16-1 AD continuum アルツハイマー病連続体：アミロイド病理から臨床症状出現まで

新美 芳樹 (東京大学医学部附属病院認知症共生社会創成治療学)

LS16-2 プレクリニカルアルツハイマー病：血液バイオマーカー研究の最前線と臨床実装の課題

春日 健作 (国立長寿医療研究センター診断イノベーション研究部)

【概要】

アルツハイマー病 (AD) は症状が出現する 20 年ほど前から病理学的変化が始まると考えられており、認知機能が保たれている病期 (プレクリニカル期) から症状が進行するまでを連続的に捉える概念、AD continuum (アルツハイマー病連続体) として理解されるようになってきた。AD の病態として想定される A β カスケード仮説では、より早期での治療開始がより効果をもたらす可能性があり、顕性遺伝性 AD 観察研究等のバイオマーカーデータは支持的な結果を示す一方、孤発性 AD では進行様式が様々であることも知られている。

近年、血液バイオマーカーの進歩により、認知機能が保たれた段階での AD 病理検出が可能となった。しかし国内外のガイドラインでは、症状がない病期でのバイオマーカー検査は現時点で推奨されていない。

本講演では、まず AD continuum について概説し、続いてプレクリニカル AD に関する最新のバイオマーカー研究とその臨床的課題を解説する。

ランチョンセミナー 17

11月15日(日) 12:05~12:55 (第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200)

老年期うつ病診療の新たな指針—うつ病診療ガイドライン2025と薬物療法の実践—

共催：武田薬品工業株式会社／ルンドベック・ジャパン株式会社

座長：東 晋二（東京医科大学茨城医療センターメンタルヘルス科）

LS17 馬場 元（順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック／
順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学）

【概要】

日本うつ病学会は2025年、9年ぶりとなる『うつ病診療ガイドライン2025』を公表した。本ガイドラインはMinds診療ガイドライン作成マニュアルに準拠し、システムティックレビューに基づく推奨を提示するとともに、ライフステージ別の診療指針を充実させた。本セミナーでは、老年期うつ病の特徴を踏まえ、身体疾患・認知症・アパシーとの鑑別、Measurement-Based Care（MBC）に基づく治療戦略、有効性のみならず副作用や薬物相互作用も考慮した抗うつ薬選択など、日常診療に直結するポイントを解説する。

ランチョンセミナー 18

11月15日(日) 12:05~12:55 (第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201)

AIを活用した認知機能評価は認知症診療をどのように変えるのか？

—会話音声AIの臨床応用と在宅利用への展望

共催：株式会社ExaMD

座長：池田 学（大阪精神医療センター脳とこころの未来医療センター／大阪大学健康支援・相談センター）

LS18 黒田 岳志（昭和医科大学医学部内科学講座脳神経内科学部門）

【概要】

抗アミロイドβ抗体薬の登場により、軽度認知障害（MCI）段階での早期発見と医療介入の意義が高まっている。しかし、日本の地域医療現場でMCIを早期に発見し診断・治療に結びつけることは容易ではない。その一因として、MCIによる認知機能低下は健常者との区別が難しいこと、またかかりつけ医が日常診療の中で負担なく実施でき、認知症の病態に適した測定法が乏しく、十分な評価が行われていない現状があげられる。

本セミナーでは、約1分間の会話音声からMCIをスクリーニングするAI医療機器を題材に、認知症専門医の立場から臨床上的有用性、在宅測定の重要性、血液バイオマーカー等他の検査法との位置づけについて講演する。

ランチョンセミナー 19

11月15日(日) 12:05~12:55 (第5会場 つくば国際会議場 2F 中会議室202)

認知症領域における漢方薬の展望

共催：クラシエ薬品株式会社

座長：笠貫 浩史（聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室）

LS19-1 evidenceと自験からみたBPSD治療における漢方製剤

眞鍋 雄太（神奈川歯科大学臨床先端医学系認知症医科学分野）

LS19-2 抗アミロイド抗体療法時代における漢方の役割

大田 秀隆（秋田大学高齢者医療先端研究センター）

【概要】

故小阪憲司先生が主導された多施設臨床研究を契機に、抑肝散を始めとする漢方製剤はBPSD治療において重要な選択肢として広く認識されるようになった。一方で、BPSDに対して一律に使用される傾向もみられるが、漢方製剤も対象症状を適切に選択することが重要である。本講演では、エビデンスと自験例を踏まえ、BPSD治療における漢方製剤の適応と位置づけについて概説する。

抗アミロイド抗体薬の登場により、認知症診療は新時代を迎えた。本講演では、新たな疾患修飾療法の基盤を支える漢方の役割に焦点を当て、フレイルに対する人参養栄湯、感覚遮断を防ぐ難聴へのアプローチ、BPSDを和らげる抑肝散加陳皮半夏の活用など、多彩な視点から統合的漢方治療の可能性を提示する。

ランチョンセミナー 20

11月15日(日) 12:05~12:55 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

行動・心理症状に対する非薬物療法と薬物療法～アジテーションを中心に～

共催：大塚製薬株式会社メディカル・アフェアーズ部

座長：布村 明彦（東京都立松沢病院）

LS20 数井 裕光（高知大学医学部神経精神科学）

【概要】

認知症の行動・心理症状は、認知症の人の苦痛や介護者への負担となっており、認知症の人が住み慣れた地域での生活を維持するためにも、適切なアセスメントやケアや治療が求められているかと存じます。本セミナーでは、「行動・心理症状とは？」、「行動・心理症状の要因、疾病負担、アセスメントの方法、対応方法」等に関し、ご講演を頂く予定でございます。

ランチョンセミナー 21

11月15日(日) 12:05~12:55 (第7会場 つくば国際会議場 4F 中会議室406)

メディカルスタッフも見るポイントがわかる！認知症の脳画像

共催：PDRファーマ株式会社／日本脳神経核医学研究会／日本核医学会

座長：羽生 春夫（総合東京病院認知症疾患研究センター）

LS21 根本 清貴（筑波大学医学医療系医療情報マネジメント学・精神医学）

【概要】

抗アミロイド β 抗体薬が利用可能となった現在、認知症の早期診断の重要性はますます高まっている。日本では診断のために脳MRI、脳血流SPECT、MIBG/DaTシンチグラフィ、アミロイドPETなど多様な脳画像検査が用いられている。近年、認知症診療は医師だけでなく多職種が関わるのが一般的となっており、メディカルスタッフがこれらの画像の読影ポイントを理解することは、日々のカンファレンスでの議論だけでなく、患者やその家族との日々のやりとりにも大いに役立つと考えられる。本講演では、認知症診療で汎用される代表的な脳画像について、それぞれの読影のポイントをわかりやすく紹介し、参加者の理解を深めることを目指す。

イブニングセミナー 1

11月13日(金) 18:05~18:55 (第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102)

共催：エーザイ株式会社／バイオジェン・ジャパン株式会社

座長：中村 祐 (香川大学医学部精神神経医学講座)

ES1-1 レカネマブ治療の新たなステージ-将来を見据えた診療連携と治療戦略-

井原 涼子 (東京都健康長寿医療センター健康長寿イノベーションセンター／脳神経内科)

ES1-2 かかりつけ医から見た新たな地域連携の広がり

北村 ゆり (葉の花診療所)

【概要】

演題1：レカネマブ治療開始から約3年が経過し、実臨床での知見が蓄積してきた。中長期的な将来を見据え、患者アクセス向上を実現するための病診連携、多職種連携、長期治療を支える診療体制について、実臨床経験と最新エビデンスを交えて展望する。

演題2：レケンビの登場によりかかりつけ医と認知症専門医の連携は、必要不可欠となり大きく広がった。しかし医療資源の偏在のため、この治療が届いていない地域が依然存在している。今後レケンビのさらなる広がりには、訪問看護、調剤薬局といった地域に足を運び、訪問する人たちとの連携が必須であり、その構築が課題である。

イブニングセミナー 2

11月13日(金) 18:05~18:55 (第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200)

高齢者の不眠と過眠、その背景にある心理-社会-生物学的な問題

共催：塩野義製薬株式会社

座長：根本 清貴 (筑波大学医学医療系臨床医学域医療情報マネジメント学・精神医学)

ES2 三島 和夫 (秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座)

【概要】

高齢者の睡眠医療では総睡眠時間の短縮や睡眠維持能の低下に目が向きがちだが、午睡の増加は見落とされやすい。とりわけ認知症では原因を特定しがたい不眠と過眠が併存し、睡眠が昼夜に分散する。背景には日中の覚醒度低下があり、睡眠覚醒を制御する神経核の器質的障害に加え、意欲低下やデイケア等での過ごし方といった心理・社会的要因が関与する。近年、日中の眠気がアルツハイマー型認知症の発症リスクとなることが示され、睡眠薬やグリンパティックシステムとの関連も注目される。本講演では高齢者の不眠と過眠を心理-社会-生物学的視点から捉え直し、昼夜双方の睡眠評価に基づく治療戦略を概説する。

イブニングセミナー 3

11月13日(金) 18:05~18:55 (第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201)

Blood biomarkers and early symptomatic Alzheimer's disease

共催：日本イーライリリー株式会社 研究開発・メディカルアフェアーズ統括本部

座長：池内 健 (新潟大学脳研究所附属生命科学研究リソース研究センター)

ES3 Sebastian Palmqvist (Skåne University Hospital/Lund University)

【概要】

Plasma p-tau217 and the p-tau217/Aβ42 ratio detect Alzheimer's pathology with accuracy approaching CSF, but the interpretation differs compared with CSF and PET. This talk covers these blood biomarkers for Alzheimer's disease, the rationale for a two-cutoff approach that could limit confirmatory testing to the intermediate zone, and how to handle intermediate results. It also presents the updated Alzheimer's Association clinical practice guideline and the gap in diagnostic accuracy between memory clinics and primary care, where most patients are first assessed.

イブニングセミナー 4

11月13日(金) 18:05~18:55 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

認知症診療の新時代～SaMD (プログラム医療機器) による検査の可能性～

共催：大塚製薬株式会社

座長：小林 良太 (藤田医科大学医学部認知症・加齢脳科学科)

ES4-1 金沢大学附属病院における早期アルツハイマー病治療外来
篠原もえ子 (金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経内科学)

ES4-2 SaMD (プログラム医療機器) を活用した新しい認知症診療
武田 朱公 (大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学)

【概要】

講演①：金沢大学附属病院脳神経内科では、抗アミロイド抗体療法を希望する患者向けの外来（早期アルツハイマー病治療外来）の認知機能評価にミレボを活用している。ミレボは短時間で客観的なスコアが可能な点にメリットがある。本講演では、当院の早期アルツハイマー病治療外来の現状とミレボ活用の実際を報告する。

講演②：SaMD (プログラム医療機器) の活用は、早期診断による重症化予防、検査の効率化による医療従事者の負担軽減、僻地・遠隔医療への応用など、認知症診療に大きなメリットをもたらす。本邦では、2025年に認知症領域で初の保険適用 SaMD が登場した。本セミナーでは、SaMDの基本的な特徴と実践的な活用法について解説したい。

イブニングセミナー 5

11月14日(土) 18:05~18:55 (第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102)

【看護師向けセミナー】認知症看護とBPSD治療における“鎮静”について一度考える

共催：大塚製薬株式会社

座長：川井 元晴 (医療法人茜会脳神経筋センターよしみず病院／認知症のひとと家族の会)

ES5-1 医師の視点から
中村 祐 (香川大学医学部精神神経医学講座)

ES5-2 看護師の視点から
岡山 多寿 (医療法人財団光明会明石こころのホスピタル)

【概要】

行動・心理症状 (BPSD) への対応では、非薬物療法を基本としながらも、薬物療法を適切に活用することが求められる。一方で、過度な鎮静による患者の生活機能への影響や、適応外使用を含む薬剤選択の課題について、改めて考える必要がある。本イブニングセミナーでは、中村祐先生 (香川大学) より、アジテーションの病態理解や最新のガイドラインを踏まえた知見、新たな治療選択肢であるプレクスピラゾールの位置づけと実臨床での活用ポイントについて解説いただく、さらに岡山多寿先生 (明石こころのホスピタル) より、看護師の立場から鎮静に頼りすぎない BPSD ケアの実践、患者の「その人らしさ」を支えるための観察・関わり方について紹介いただく。本セミナーを通じて、認知症看護と BPSD 治療のあり方を多職種で考える機会としたい。

イブニングセミナー 6

11月14日(土) 18:05~18:55 (第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200)

早期アルツハイマー病治療計画：治療後を見据えた治療医とのかかわりと地域サポート

共催：日本イーライリリー株式会社

座長：池田 学（大阪府立病院機構大阪精神医療センター／脳とこころの未来医療センター）

ES6-1 “アルツハイマー病と共に住み慣れた地域で生きる”を支える 早期介入の意義

木村 成志（大分大学医学部神経内科学講座）

ES6-2 早期アルツハイマー病のマネジメント：地域ネットワーク

新井 哲明（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学）

【概要】

アルツハイマー病の早期診断の目的は、抗アミロイドβ抗体薬治療のみならず生活環境・習慣の改善を含む非薬物的介入が可能となり、当事者にとって住み慣れた地域で自分らしく生きることを支えるための選択肢が得られることであると考えられる。長期的視点から、当事者にとって抗アミロイドβ抗体薬治療による進行抑制が、治療期間のみの生活における短期的なベネフィット向上のみならず、医療・福祉連携の活用による長期的な地域社会生活支援につながることが重要である。ADの地域介入研究結果から見えてきたADの予防・診断・治療（薬物・非薬物）介入の意義と、抗アミロイドβ抗体薬治療を通じた地域連携体制について解説する。

イブニングセミナー 7

11月14日(土) 18:05~18:55 (第4会場 つくば国際会議場 2F 中会議室201)

共催：シスメックス株式会社

座長：池内 健（新潟大学脳研究所ブレインヘルスケア領域遺伝子機能解析学分野）

ES7-1 認知症診療とAPOE遺伝学的検査

中村 勝哉（信州大学医学部脳神経内科・リウマチ・膠原病内科）

ES7-2 APOE遺伝学的検査における患者・家族とのコミュニケーション

ー保険診療時代の意思決定支援ー

竹内 千仙（東京慈恵会医科大学附属病院遺伝診療部）

【概要】

アルツハイマー病（AD）診療は、抗アミロイドβ抗体薬の上市により大きな転換期を迎えている。患者ごとの副作用リスク評価に資する指標として、APOE遺伝学的検査（以下、APOE検査）の重要度が高まっている。APOE検査は、抗アミロイドβ抗体薬の副作用を評価する薬理遺伝学的検査として薬事承認され、2026年7月より保険適用となった。他の薬理遺伝学的検査とは異なり、ADの発症リスクに関する遺伝的情報も含み、血縁者にも共有される。本セミナーでは、APOE検査を適正な活用と、求められるコミュニケーションのあり方を提示し、検査前説明、結果開示、共同意思決定の実践検討と、保険診療時代に求められる認知症診療のあり方を展望する。

イブニングセミナー 8

11月14日(土) 18:05~18:55 (第5会場 つくば国際会議場 2F 中会議室202)

血液バイオマーカーとPETで捉える認知症の分子病理—生物学的診断からステージングへ—

共催：ライフテクノロジーズジャパン株式会社-Olink/アプロサイエンス (株式会社ファーマフーズ)

ES8 伊東 大介 (慶應義塾大学医学部内科学 (神経)/メモリーセンター)

【概要】

アルツハイマー病の診断は、症候に基づく診断から、分子病理を捉える生物学的診断へと移行しつつある。当院では、血漿 Aβ42/40 比やリン酸化タウなどの血液バイオマーカーの測定・解析を進め、臨床実装を目指している。さらに、網羅的血漿プロテオミクスによる病期や脳領域特異的变化の解析を試みている。また、タウ病理を可視化する Florzolotau (Aβ18F) PET を導入し、原発性タウオパチーの生物学的診断や診断困難例の鑑別に活用している。本講演では、血液バイオマーカーと PET イメージングを組み合わせたマルチモーダル診断戦略と、抗 Aβ 抗体療法時代における適応症例選択への応用について概説する。

イブニングセミナー 9

11月14日(土) 18:05~18:55 (第6会場 つくば国際会議場 3F 中ホール300)

共催：エーザイ株式会社/バイオジェン・ジャパン株式会社

座長：岩田 淳 (東京都健康長寿医療センター)

ES9-1 アルツハイマー病を規定するバイオマーカーの新展開

堀江 勘太 (エーザイ株式会社/Washington University School of Medicine)

ES9-2 バイオマーカーから迫るアルツハイマー病の病態と治療戦略

徳田 隆彦 (大阪公立大学大学院医学研究科健康長寿医科学講座病因診断科学)

【概要】

演題 1：アルツハイマー病の病態を規定するバイオマーカーとして、タウ凝集体を反映する MTBR-tau243 と Tau-PET を中心に最新知見を概説する。さらに、アミロイドβプロトフィブリルの定量化を通じて、レカナマブの作用機序と効果を考察する。

演題 2：アルツハイマー病の病態を捉えるバイオマーカーとして、アミロイド・タウ関連指標が反映する病理学的変化を整理する。さらに、レカナマブの臨床試験で示されたバイオマーカーの変化を臨床データと併せて考察し、病態に及ぼす影響と作用機序への理解を深める。

モーニングセミナー 1

11月15日(日) 7:50~8:40 (第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室101+102)

症候性早期アルツハイマー病の治療評価 (18ヵ月)：治療対象者及びそのご家族の理解と同意の視点から

共催：日本イーライリリー株式会社

座長：繁田 雅弘 (栄樹庵診療所)

MS1-1 症候性早期アルツハイマー病の治療計画

猪原 匡史 (国立循環器病研究センター脳神経内科)

MS1-2 MCI者・支援者とともに進める抗アミロイドβ抗体治療とその先

古和 久朋 (神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域)

【概要】

抗アミロイドβ抗体薬の適応となるアルツハイマー病の当事者とそのご家族にとって、薬物治療が選択肢の1つとなった。原則 18 ヶ月間の治療期間を通じ、期待できる効果は進行抑制であり、治療に伴うリスクを当事者とそのご家族が治療検討時に正しく理解し、意思決定を促すことで、その後の生活を考える契機となる。治療後も続く生活支援を目的にした抗アミロイドβ抗体薬治療として、治療完了後の臨床評価指標を用いわかりやすくその患者さんやご家族に説明され、理解いただくことが必要である。治療後も続く生活が重要であり、多職種連携での支援を実現するためにも、医療の役割が不可欠であることを参加者の皆様と考えたい。

モーニングセミナー 2

11月15日(日) 7:50~8:40 (第3会場 つくば国際会議場 2F 中ホール200)

共催：エーザイ株式会社／バイオジェン・ジャパン株式会社

座長：新井 哲明（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学／筑波大学附属病院認知症疾患医療センター）

MS2-1 当事者の視点から抗A β 抗体薬治療を考える

小林 良太（藤田医科大学医学部認知症・加齢脳科学科）

MS2-2 抗アミロイド β 抗体療法における社会実装の展望 ー長期アウトカムを見据えた治療戦略を踏まえてー

伊東 大介（慶應義塾大学医学部神経内科／慶應義塾大学病院メモリークリニック）

【概要】

演題 1：2023 年末から抗 A β 抗体薬治療が実臨床に導入され、早期 AD 診断の重要性が高まっている。本講演では、病態・病理学的背景を踏まえつつ、レケンビ処方との振り返りと、本治療を選択・継続した当事者の想いや期待を交えながら、これからの認知症診療について考える。

演題 2：アルツハイマー病（AD）における抗アミロイド β 抗体療法は社会実装から 2 年半が経過し、当院のレカネマブ導入例や血液バイオマーカーを用いた症例選択の知見が蓄積してきた。今後の投与体制や前臨床期 AD への先制医療の動向を含め、AD 診療の現状と展望を概説する。